

<4時から夢塾> 示範授業:その3



第14回「4時から夢塾」は、11月12日(火)に、葛巻小学校で、新潟大学教育学部附属長岡小学校の笠原知明先生を講師に、「算数の授業改善」をテーマに開催しました。提案授業・ミニ講座の概要です。

(1) 授業 : 3年 小数 ~新しい単位で比べよう~

- ・身の周りで小数がどこに使われている? → マラソンの距離, 靴のサイズ, 1.5ℓ ペットボトル。
- ・不等号($<$, $>$)を使って数を比べる → $20 > 5$, $2 > 1.5$ 小数点に不思議な秘密がありそう。

本時の課題: 「□や△に何を入れると $26□ = 2.6△$ になるのかを考えよう。」

- ・プリント図を使い, 等しくなること説明しよう。(配付プリント図は, $26dℓ$ は10目盛りあり → 26 等分へ着目を促す。 $2.6ℓ$ は目盛りなし → 端の数を10等分した6個分へ着目を促す。)



- ・C: 三人が各自考えたことを発表する。 T: この図(目盛りなし)で, どうやって0.6なの? 分かっているけど, どう書けば…モヤモヤしてとしているかな? ⇒ まとめ □に $dℓ$, △に $ℓ$ 。

(2) ミニ講座 「これなら, できるかもやってみよう」*算数授業の「悩みベスト3」の解決策

3位: 「◎(本時の課題)が上手く作れない。」 → ◎は「教師と子どもが紡ぎ出す問いや願い」

- ・こんな◎から始めませんか。 → 二個対立 ◎A or B, ◎A or notB ストライクゾーンを狭めて。
- ・◎や発問に「ど」が多い。…どうして?, どのように?, どうやって?, どうしたら?, どんな?
- ・上手くいかないのは, 子どもの意識が分からないから。 → 予想される子どもの意識を考えること。 → T: なるほど。だからA何だね。今の考え方, みんな分かった? C: 先生は分かってくれた。

2位: 話す子が少ない。話す子が決まっている。 → これは, 悪いことなの?

- ・聞き上手な子どもは受け身ではない。聞き手が上手に返してやると話し上手になる。問いの解決に向かって聞き手に働きかける話し手。話し手に働きかける聞き手が前のめりに算数をする。

1位: 「教師がしゃべりすぎる」を磨こう…子どもの発言の後, 無駄な返しをしていないか。

- みんなで進むとき, 交通整理を端的に行うこと。どんどんとじっくりの違いを明確に行うこと。
- ・子どもは感覚的には分かっているが, モヤモヤしている。これを拾ってみんなで考えていくこと。

参加者の声

- ・◎(課題)の設定の仕方を学んだ。 ◎を教師が与えていることを反省し, 学んだことを行っていきたい。
- ・新しい形の単元の導入を学んだ。 自分は, 思いつかない手法だったので, とても刺激を受けた。
- ・若手の「悩みベスト3」は, すごく共感できた。 ◎を上手く作るコツについて, 先生の話や授業から学ばせて頂いた。まとめで, 次への課題を残しておくことも勉強になった。
- ・聞き上手を育てることに, 力を注ぎたいと思った。そのための手立てを分かり易く示して頂いた。授業の振り返りのさせ方も参考になった。
- ・単元の導入が, いつもワンパターンになっている。子どもがけんめいに考え, モヤモヤする導入から, 紐解いていくことも必要だなと感じた。考えたくなる◎作りを頑張りたい。

